

会 報 <<第468号>>

次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会



令和7年2月1日

目 次

I 令和7年新春会員交流会 ……2～6頁

(1) 会長あいさつ

(2) 来賓あいさつ

・兵庫県副知事 服部 洋平 氏

・神戸市住宅建築局副局長 小川 直樹 氏

(3) 叙勲、褒章受章者への記念品贈呈

(4) 新規加入会員の紹介

II 会員寄稿 ……7～8頁

「わがまちの歴史 西宮鳴尾浜編 続編」

(株)岡工務店 取締役副社長 岡 澄彦 氏 (当会副会長)

III お知らせ・広報コーナー 行事予定、編集後記 等 ……9頁



I 令和 7 年 新春 会 員 交 流 会

日時：令和 7 年 1 月 9 日（木） 17：00～19：00

場所：神戸三宮東急 REI ホテル

【会 長 挨拶】



新年明けましておめでとうございます。新年のご挨拶を謹んで申し上げます。

皆様におかれましては、旧年中は当会の運営にご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

令和 7 年 2025 年の新年は、初日の出を拝むことができる好天に恵まれ、お正月を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は不安な年の始まりでしたが、今年は年末年始で 9 連休の方も多く、ゆっくりと穏やかに正月を過ごされたかと思います。

そういった中、本日は仕事始め早々にもかかわらず、また、この冬一番の寒波到来の中、兵庫県建築会会員並びに関係者がこのように多数ご参加いただき、心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、ご来賓として兵庫県からは服部副知事様を始め、幹部職員の皆さま、神戸市からは建築住宅局の小川副局長様にご出席いただきました。また、友好団体からも多数ご出席いただき、改めて心から御礼申し上げます。有難うございました。

さて、今年巳年であります。「蛇は脱皮して殻を破ることから、巳年は復活と再生の年」とされます。

そして、本年 1 月 17 日には、阪神・淡路大震災から 30 年の節目を迎え、改めて震災を振り返り、我々建築関係者の経験と教訓を次の世代につなぐ年であります。そして、4 月 13 日からは楽しみな「大阪・関西万博 2025」が半年間にわたり開催されます。神戸空港での国際チャーター便の運用も始まることから、世界中から兵庫県にも沢山の人や物が集まることと思います。これらのことを契機として、兵庫県の安定と成長を期する重要な年になると思います。まさしく蛇が皮を脱ぎ捨て、新しい姿へと生まれ変わるように、地域社会も生まれ変わるチャンスが巡ってきました。このことは、これまでの努力が実り、目標達成へと近づき、そして、次のステップに向かって果敢に挑戦する年であると考えます。

巳年のエネルギーを最大限に活かし、より豊かな一年にしていきましょう。

そして、当会の発展成長が地域社会にも良き影響を与えることと信じております。当会の活動を盛り上げるためにも、月例会の講師の選定や視察研修会の充実など、役員一同、精一杯取り組んでまいります。

結びといたしまして、本年も皆様からのご理解とご支援をお願い申し上げ、本日もご参集の皆様のご隆盛とご健勝を心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



【来賓挨拶】

(兵庫県 服部副知事)



皆様、新年おめでとうございます。兵庫県副知事の服部でございます。本日は、令和7年の兵庫県建築会の新春会員交流会が多くの皆様ご参加のもと、このように盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。山本会長をはじめ、建築会の皆様におかれましては日ごろより本県のまちづくり、建築行政の推進に格別なるご理解、ご協力を賜っておりますことを、この場を借りて御礼申し上げます。

そして、本日は令和6年秋の叙勲や国土交通大臣表彰、そして兵庫県功労者表彰を受賞されました4名の皆様、このたびの受賞、誠におめでとうございます。長年にわたる建築業界全体の発展に対するご尽力、ご貢献に改めて心よりの敬意を表します。

さて、今年は阪神・淡路大震災から30年という大切な節目を迎えます。死者6,400名余り、そして住宅被害が約64万棟という大変甚大な被害でありました。ご参集の会員企業の皆様におかれましても、自ら被災される中、復旧・復興の過程において様々な形、様々な場面でご尽力、ご貢献をいただいたことと思います。改めまして感謝を申し上げます。

1月17日には天皇皇后両陛下ご臨席のもと、1.17の集いを開催いたしまして、犠牲となられた多くの御霊を追悼いたしますとともに、全国から寄せられた温かいご支援に

対する感謝を申し上げ、そして復旧・復興の過程を通して培われた創造的復興の教訓と経験を次の世代へしっかりとつないでまいりたいと思っております。

私たちはあの地震で、地震大国である我が国において、建築物の耐震・制震・免震技術がいかに大切であるかということを感じました。昨年1月には能登半島地震が発生し、また8月には初めての南海トラフ地震臨時情報が発表されるなど、南海トラフ地震等の大規模地震への備えが急務となっております。

耐震性が不足しております県庁舎のあり方ですが、「防災機能や働き方改革を志向したコンパクトな新庁舎整備に着手」という大きな方向性を12月に開催されました県議会の県政改革調査特別委員会の中で、当局の改革案としてお示しをさせていただいたところです。今後とも、庁舎そして県営住宅、病院といった県有施設の耐震改修や建て替えを計画的に進めてまいりますとともに、我が家の耐震改修促進事業をはじめ、県内の住宅や建築物の耐震化をしっかりと進め、安全・安心なまちづくりを進めてまいりたいと思っております。

山本会長をはじめ、建築会の皆様におかれましては、県民の安全・安心を守るために、長年の経験に裏打ちされた確かな技術力をもって、安全・安心なまちづくり、災害に強いまちづくりを牽引していただきたいと思います。

結びとなりますが、兵庫県建築会の今後ますますのご発展とご参集の皆様にとりまして、今年1年が輝かしい飛躍の年となりますことをお祈り申し上げまして、私からのお祝いのご挨拶とさせていただきます。本年もどうかよろしくお願い申し上げます。



(神戸市住宅建築局 小川副局長)



新年明けましておめでとうございます。

神戸市建築住宅局副局長の小川です。本日は、兵庫県建築会新春会員交流会の開催、誠におめでとうございます。また、平素は神戸市政並びに建築住宅行政の推進にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

この1月17日で阪神淡路大震災から30年の節目を迎えます。この間神戸市、とりわけ建築住宅局では住まいの耐震化ですとか、まちの安全・安心な姿を追い求めて、種々の施策を講じてまいりました。少し古いデータですが、神戸市内の住宅の94%余りは新しい耐震基準、新耐震基準並みの安全性を確保できているというデータがあります。94%としても、残り数パーセントを戸数に換算すると、まだ10万戸前後の住宅が耐震性に不安のある状態です。この30年の節目を契機といたしまして、より一層耐震化の推進に取り組まなければならないという決意を新たにしております。

昨今人口減少が続いていますが、人口減少社会の中でも、神戸に住みたい、住み続けたいと皆さんに思っただけのまちとして発展を続けるために、建築行政、住宅行政の面では、建築や住宅のストックの流通促進であるとか、質の向上、最近では空き家の活用促進といった課題に対応することが重要と思います。

流通促進という面では、例えば郊外団地に住み代えるとか、親子世帯が近居や同居をされるといったことを後押しするためにこうべくらし応援補助金という制度を運用していま

す。後押しになるような施策を講じ、また質の向上といった面では、分譲マンションの管理問題、特に神戸では管理状況をきちんと情報開示するとか、届け出をしていただき、ご自身のマンションが適正に管理維持されていることで、質の向上につながるかどうかを確かめていただけるという制度を運用しております。こういった制度も有識者の方の提言などを受けて、今後は義務化をするといったことの検討を進めてまいりたいと思います。

また、一方で老朽化して危険な空き家が市内にたくさんあります。このような老朽危険家屋の対策としては、弁護士を初めとする特命チームを今年発足させました。このチームで民法上の財産管理制度を活用しまして、所有者不明空き家を早期に解消させるということに取り組んでいます。それ以外にも、老朽化して使うあてのない空き家については、所有者の方できるだけ早期に解消を図っていただくということを目的に、全国で最大規模の予算を確保して、老朽家屋の解体撤去の補助金も運用しています。

一方で、皆様方にも関連のある公共施設の整備、維持、保全といった分野では、最近の材料費、人件費の高騰、材料、製品の納入遅延といったようなことを踏まえて、我々の工事についてもなかなか入札で応札いただけないという事例も出てきています。今後この建設業界を担う新しい人材をどのように確保していくのかといった点について、工事現場の週休2日制の徹底、ICT技術を活用した業務の効率化、働き方の改革を進めることが重要です。

私ども神戸市で発注する工事について、工事現場の週休2日制度を完全実施していますが、このような取り組みを民間分野でどうやって浸透していくのかを官だけではなくて、皆様方と連携し効果的な施策を講じる必要があるとて考えています。

最後になりましたけれども、兵庫県建築会会員の皆様方のますますのご健勝とこの会のご発展、ご活躍を祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。

【 乾杯 岡 副会長 】



今年 2025 年は阪神・淡路大震災から 30 年を迎える年です。また、日本のラジオ放送が始まってから 100 年を迎える年でもあります。

震災当時、各メディアの機能は停止した中唯一ラジオが果たした様々な情報提供は非常に頼りになったことを思い返しております。

ラジオ放送は 100 歳、兵庫県建築会は 78 歳になりますが、当会も更なる 1 ページを刻んでまいりたいと思っております。

それでは、令和 7 年一般社団法人兵庫県建築会新春会員交流会にご参集された方々のご健康とご活躍を祈念いたしまして、ご唱和ください。乾杯。



【叙勲、褒章受賞者等への記念品贈呈】

◎旭日双光章



(株) 吉川組 代表取締役社長 吉川壽一 氏

◎黄綬褒章



(一社) 兵庫県建設業協会 会長 三木健義 氏

◎国土交通大臣表彰



(株) みかた建築事務所 代表取締役 宮本 毅 氏

(その他、本日はご欠席でしたが、(株) 淡路土建代表取締役社長 琴井谷 氏が兵庫県県民功労者賞を受章されました)

【新規加入会員の紹介】



久保田メント工業（株）代表取締役 佐伯 元彦氏

【会場風景】



【中締め 出野上 副会長】



本日は皆様新年のお忙しい中、兵庫県建築会新春会員交流会に多数ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

昨年は能登半島地震に始まり、予期せぬことが立て続けに起こった年でございました。良いことでは、メジャーリーグの大谷選手の活躍、パリオリンピック、パラリンピックでの日本人選手の活躍もありました。

今年も恙なく年が明けたわけですが、巳年という脱皮を繰り返して成長していく年でもあります。新しいことにチャレンジして、大きな成果が実りますよう、そういったことを願いつつ一本締めで中締めとさせていただきます。



II 会員寄稿

「わがまちの歴史・西宮鳴尾浜 続編」

(株)岡工務店 取締役副社長 岡 澄彦 氏 (当会副会長)

直前の私の寄稿では惜しまれて閉館したリゾ鳴尾浜と、武庫川団地に生まれた赤胴車広場について触れました。その後(2023年11月)、建築会の見学研修会では、旧甲子園ホテルを見学することになり、甲子園球場生誕100年を迎える2024年に先立って「阪神間モダニズム」を会で学ぶ機会となりました。

皆様の多くは、「甲子園阪神パーク」というと甲子園球場の隣保。つまり現在ららぽーとがある位置を連想されるでしょう。1950年にできたものですが、実は2代目であって、その前に幻の初代阪神パークが存在しました。1929年のことです(但し当初3年間は、「甲子園娯楽場」という名称でした)。

現在も砂浜が残る甲子園浜は往時、海水浴場として賑わっており、水族館と動物園と遊具さらには温浴施設「潮湯」も併設したアミューズメントパークが存在し、そのスケール感から当時「東洋一の水族館」とうたいました。

水族館では和歌山から運ばれた鯨を飼育。動物の放し飼い。当時珍しい電気仕掛けの飛行塔や自動車を模した遊具と、知育的施設というよりは一大レジャーランドでした。20世紀初めから実績のあるニューヨークのコニーアイランドをお手本にしたとされています。最多では18000人/日の来場がありました。もともと甲子園で開かれた博覧会のパビリオンを有効利用したので「二度おいしい」ですね。

西宮七園を形成する甲子園のまさに象徴でしたが戦争が進む1943年、鳴尾飛行場の滑走路を建設するために解体の憂き目を見ることとなります。幅100X長さ1200mの滑走路が2本エックス字にクロスする形状の滑走路を設けるためです。同年、国鉄及び阪神武庫川線が物資運搬及び工場の従業員輸送のために、鳴尾浜の洲崎まで開業し

ています。なので、初代阪神パークのあった場所の一角は、軍需産業であった川西航空機を中心とした用地として軍に接収されました。接収解除は1957年まで。その後は払い下げられ、浜甲子園団地や武庫川女子大の浜甲子園キャンパスが建設されました。



(梯子状の遺構は阪神パークの遺構でなく、戦後に設けられた排水溝の跡。東側に西宮市枝川ポンプ場新設によって役目を終えた)

一時閉鎖から7年後の1950年。初代のコンセプト・動物園と遊園地を忠実に継承する(さすがに温浴施設は割愛されたが、併設のデラックスプール、スケートリンクは活況)形で皆さんがおなじみの場所=甲子園球場の隣に移転して再建されたのはご存じの通り。最盛期1973年には年間来場者135万人を誇っていました。阪神大震災後、段階的に規模縮小(住宅展示場と併設)となり相次ぐ電鉄系遊園地閉園の中で2003年まで地域、沿線の人々に親しまれていました。

その面影(特に初代)を残していたのが(阪神パークを補完するような同施設との並存期間はあられるけれど)「リゾ鳴尾浜」でした。しかしそれも2020年に閉館。



(遊具・電気自動車の楕円形コースのブロックフェンス残存基礎。後方に水面から突出するのは護岸跡：長潮の干潮時)

地域型のテーマパークは私たちの心の中にしか生きていないのでしょうか。甲子園浜には解体から80年経った今も、干潮のときだけコンクリートブロックに見える構造物の残骸が姿を現します。何を隠そう、これが初代阪神パークの遺構です。

初代阪神パークの遺構と折り重なる形で、滑走路の痕跡が姿を現します。遊具の飛行塔乗り場の階段、電気自動車のコースのブロック基礎、併設「潮湯」のライオンを象った湯口などなど。その通称ライオン岩は、大潮の干潮時しか探し当てられない貴重な存在です。



(出典：阪神電鉄。鳴尾から西宮の海岸をコニーアイランドにするという壮大な計画だった)

大阪湾と空間を共有、海にせり出た水族館。その登場は早すぎたのでしょうか。

潮干狩りに興じる家族連れの来訪者や海鳥を横目に、往年の遺構を探し歩くのも一興です。大潮の干潮 x 日中 x 雨天以外且つ仕事休み。なかなか条件揃うのが、痕跡といえ自然相手なだけに「撮り鉄」と違った難しさがあります。

阪神電車の駅の高架、浜甲子園団地の大規模な建て替えと変化を遂げた鳴尾地域ですが、現在でも鳴尾村時代の遺構が残っております。奇跡的に戦火を逃れた一角も存在します。また、甲子園浜から六甲山系の稜線を背景にした西宮のまちなみは絶景といえるでしょう。

皆様の身近な場所にも知られていない「遺跡」があるかもしれません。探して、思いをはせてみるのも面白いですよ。

Ⅲ お 知 ら せ

◎行事予定

1 2月の月例会

日時：令和7年2月6日（木）
12：00～14：00
場所：神戸三宮東急REIホテル
演題：「南海トラフ地震対策について」
講師：NPO法人 防災サポート隊
理事 林 健児 氏

2 3月の月例会

日時：令和7年3月6日（木）
12：00～14：00
場所：神戸三宮東急REIホテル
演題：「大阪・関西万博に向けた
兵庫県の取組」
講師：兵庫県万博推進課
課長 岸本 健吾 氏

3 令和6年度第4回理事会

日時：令和6年3月6日（木）
14：00～15：00
場所：神戸三宮東急REIホテル
内容：・令和7年度事業計画
・令和7年度予算
・令和6年度財務報告
・その他

4 令和6年度事業監査

日時：令和7年4月3日（水）
13：30～14：30
場所：兵庫県建築会事務局
内容：・令和6年度財務関係監査
・令和6年度事業執行状況
・その他

◎編集後記

昨年は新年早々能登半島地震が発生し、大きな被害をもたらし、未だ復興途上の状況が続いています。また、今年は阪神・淡路大震災から30年を迎える年になります。

30年前の震災当日、私は明石から自転車で昼頃に元町の県庁舎に到着しました。その時は何が起きているのかわからず、目の前の惨状に呆然とするばかりだったことを思い出します。そのあとは無我夢中で仕事に携わっていました。

それから30年、毎年1月17日は自分で何が出来たのだろうと自問自答しながら、献花に訪れています。これからも当時のことなどを忘れずに未来に目を向けながら、前に進んでいければと思っています。

さる1月9日に当会恒例の新春会員交流会が開催されました。

今回も服部兵庫県副知事様以下数多くの来賓にご出席して頂きました。お忙しいなか誠にありがとうございました。

新春会員交流会が終われば、年度末の事業となりますが、会員の皆さまにおかれましても、月例会等にご出席頂きますようお願いいたします。

事務局	：	吉本義幸、石井滝実子
電話	：	078-996-2851
FAX	：	078-996-2852
Email	：	archit-k@axel.ocn.ne.jp



安心をカタチに

兵庫県住宅再建 共済制度 フェニックス共済



自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」

今後、もしも！！

南海トラフ地震が発生したら

- ▶ 30年以内の発生確率 最大 80%!
- ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟!

活断層地震が発生したら

- ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

大型台風が直撃したら

豪雨による災害が発生したら

自然災害で被災した
住まいの再建に備えて **兵庫県が実施する共助のしくみ!**

県内に住宅(戸建て・マンションなど)をお持ちの方に

住宅再建共済

年額**5,000円**で
再建、補修時等に
最大**600万円**給付!

※半壊(損害割合 20%)以上

一部損壊特約

年額**500円**で
補修時等に
25万円給付!

※損害割合10%以上20%未満

県内の住宅(借家含む)にお住まいの方に

家財再建共済

単独加入 年額**1,500円**で
住宅とセット加入の場合 年額**1,000円**で
購入・修復時に 最大**50万円**給付!

※床上浸水・半壊以上

※住宅の被害認定(損害割合)は、住宅の所在する市町が発行する「り災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

お問い合わせ

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

コールセンター **078-362-9400** (平日9:00~17:00)
FAX: 078-362-4082

E-mail jutakukyosaikikin@pref.hyogo.lg.jp

フェニックス共済 検索 *加入申込書はダウンロードできます*



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局(簡易郵便局除く)にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です!